紀　行

# 中華人民共和国

稲　垣　美智子
（金沢大学医療技術短期大学部看護学科）

## はじめての中国

私は，4000年の歴史と広大な陸地をもつ中国に，一度行ってみたいと思っておりました。その思いは，中国からの研修生である華英さんが当短大看護学科の金川教授のもとにいらしてより深くなっていました。華英さんをとおしての中国の看護について，想像が脹らみ，隣国でありながら，遠い存在であることに気づいたからかもしれません。

そんな折，金川教授と泉助教授が，華英さんの勤務する蘇州市第２人民病院から招待を受け，そこで講演することになりました。私は是非同行したいと願い，それが実現することになりました。1991年10月26日から11月２日と８日間ですが，私にとっては貴重な体験となりました。

## １．中国への第１歩

中国に最初に降り立ったのは，上海空港です。入国手続きでの，外国人に対する態度は寛容のように感じ，緊張感なく中国への第１歩をふみだすことになりました。一旦空港を出るとそこにはたくさんの人が群がり，なにが何だかわからない私達に，しきりに何かを話しかけてきます。華英さんに習ったとおり「プーヨゥ」の連発でその場をきりぬけました。中国でのこの第１声は，後で説明を受けたのですが「不要」つまり要りませんでした。

そうこうしていると，病院から運転手さんつきの出迎えをうけました。運転手の方は女性で，長さん。無口で運転のうまい彼女は病院の専属で，この後の中国の旅はこの方の運転により快適なものとなりました。

## ２．蘇州市第２人民病院で

蘇州市第２人民病院は，蘇州市の中心に位置し，３万平方メートルの敷地面積をもち，1952年の設立で歴史のある病院です。ベッド数566床と800余人の職員，内看護者235人の規模です。

私達の出迎えは，「熱烈歓迎，金川克子教授，泉キヨ子助教授，稲垣美智子講師」と書かれたピンクの看板（写真１）に，病院あげてのもてなしでした。「熱烈歓迎」は聞いたことは

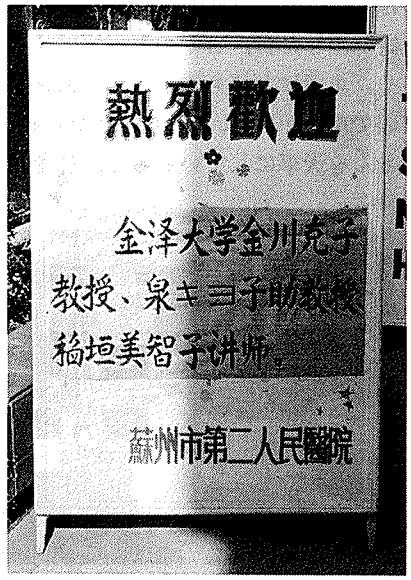



写真１．病院前の歓迎たて看板

ありますが，現実にその看板で迎えられるのは，なんとも照れくさいものでした。

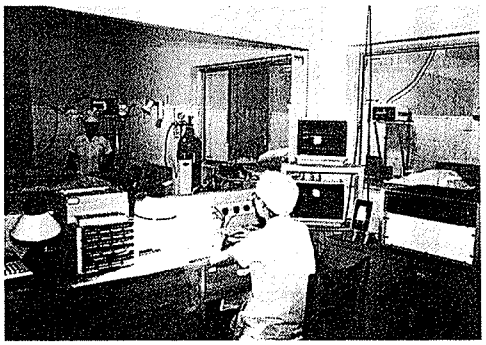
金川教授の講演では，蘇州市第２人民病院長をはじめ，看護部長，副部長，婦長スタッフと，蘇州市第１人民病院からの看護部長，副部長方々が加わり，約150人収容の会場はいっぱいとなりました。持参した日本での看護実情や看護教育スライドにはとても関心が深く，質問もたくさん出ました。質問の中には，褥創予防看護についてもっと知りたいというのがあり，背景に，高齢化社会とそれに伴う医療の問題が，日本と共通するに関心であることが伺われました。また，夜勤免除年令はいくつからか，あるいは職業選択の方法をどうするかなど，具体的な質問については，日本と異なり，生涯にわたり看護婦を続ける国での違いを伺い知ることができました。

また私には，最初少し理解しにくかったことの一つに，「日本の看護婦は，決められたことや仕事をきちんとするか」つまり，看護婦が自分の仕事に対して，手抜きをしないかという関心が会場全体のかなりの関心事であったことです。後でこの現象の理由を同行の華英さんに聞きました。彼女は，中国では今，看護婦の「素質」に対する関心が高く，彼女が一時帰国した折，日本の看護婦は「素質」が良く，患者にとてもやさしく，何をするにも笑顔で声をかけて，とても対話があること，患者さんを大事にしているので，患者さんもとても看護婦を頼りにしていると話したことがあるからだと説明してくれました。会場の大多数は，看護婦が，患者の相談相手や話相手をするイメージはつきにくそうでした。しかし，私は華英さんが表現した「素質」という言葉はその時よく理解できなかったのですが（今は，職業意識という意味に近いのかなと思っています）とても新鮮に響きました。さらに日本の准看護婦制度についての質問もでましたが，これはこのような制度のない中国ではなかなかイメージがつきにくそうでした。

全体として，熱心で質問内容もオープンなものでした。それだけ，皆さんがこれからの中国の看護に思い入れがあることが伝わってきました。

講演後，看護部長，副部長が中心になり病院を案内してくださいました。どの部署でも，自分の病院の設備や体制を誇らしげに紹介して下さいます。そこには日本に比較して決して物資は豊かでもなく，進歩しているわけでもない，正直いって日本での，物が十分すぎるくらいあり，ディスポーザブル物品がほとんどの環境から比べるとそれは，とても心もとないように見えました。しかし，その誇らしげな姿にとても前向きで最善を尽くしている自信が伺われ，またある種のおおらかさを感じました。

それは，患者さんの様子を見たときにも感じました。ベッドで休んでいる患者さんは，



資料１．病院パンフレットから抜粋したICU

資料２．病院パンフレットから抜粋した手術室

写真２．蘇州市第２病院　国際交流記念館にて
病院長，看護部長：副部長と

自分からめくってみせてくれる布団の中は，私服を着たままだったり，手術後日が浅いのに簡単なカーゼ保護がなされているだけなのに，とても満足気だったのです。

### ３．蘇州衛生専門看護学校で

中国の看護教育制度は図１（華英，金川克子：中国における看護教育および病院看護の現状，金沢大学医療技術短期大学部紀要，15，97～100，1991ほより引用）のとおりです。

学校は整然として，学校長，教師，学生の代表，事務官，退官された助教授も含め約16人とテレビカメラが迎えてくれました。看護教育の目標は社会主義建設事業のために，教育による必要な知識と熟練した看護技術を身につけ，良い医療道徳をもち，社会主義と患者さんに奉仕することであると説明を受けました。

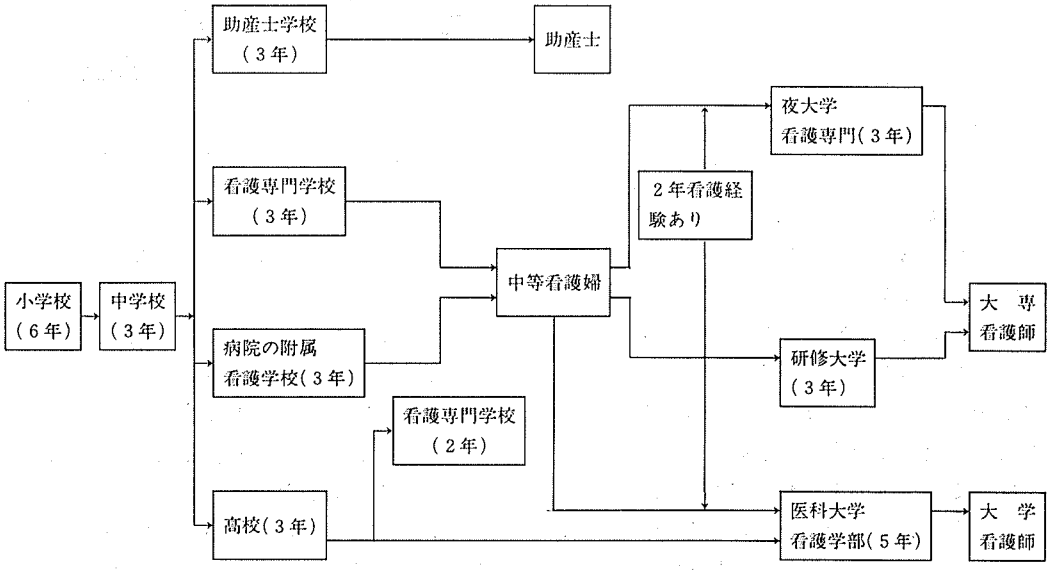



図１．看護教育体系

写真３．蘇州衛生専門看護学校前で

10年間にわたった文化大革命により，中国の教育事情は大きく変わったとの話もありました。看護の分野では，それまでナイチンゲール理論が盛んに看護教育の場に登場したが，現在は看護の見本となるのは，中国における一番偉い人だと退官された助教授が語って下さいました。また看護学校への入学者は，文化大革命前は，ほとんどが高校卒業生であったのに対し革命以降，中学校卒業生の数が増加したということです。同席した看護学生も中学卒業後入学したと話しており，文化大革命の看護への意外な影響を改めて知った思いでした。

### ４．無錫，蘇州，杭州

運河の発達した無錫,「天に極楽あれば地に蘇州，杭州あり」と詠まれた蘇州，杭州はいずれも景勝地です。太湖や寒山寺，虎丘，西湖などを案内していただきました。寒山寺は想像よりこじんまりとした印象で，湖はどこまでも広く西湖はまるで水墨画のようでした。ちょっと立ち寄ったお茶を作っている民家の様子が写真３です。なにか遠い昔の懐かしい１場面に出あったようで心暖まりました。

蘇州では，金沢市が蘇州の姉妹都市でもあり，丁重なおもてなしを受けました。蘇州副市長をはじめ，衛生局長，学校教育長など病院や学校関係の要職の方が一堂に夕食会を準備してくださったのです。中国と日本の文化の違いや共通点，あるいは女性の職業観や家庭での役割などの話題で，とても楽しい時間を過ごしました。そして，それはそれはおいしい中国料理とラオチューでした。

写真４．立ち寄った民家ののき先で

### おわりに

初めての中国は，私にとって驚きや感激の旅を体験させてくれ，おおらかでちょっぴりなつかしさをもたらしてくれた国でした。

「どうしてそんなに日本語が上手なんですか」の問いに「日本の歴史やその他，とにかく日本が好きだからです」と答えられた，とても日本語の上手な小児科医や，旅ならではの，本には載っていない中国の細かな様子を熱心に語ってくれた華英さんをとおして，またこの地を訪れようと心にちかう旅でした。